巻頭言

心のケアセンターの新しい体制

帝塚山大学心のケアセンター
センター長　中　地　展　生

この巻頭言を書いているのが2021年１月です。書き始めたのは，2020年の11月頃だったような気がしますが，なかなか書き進むことができませんでした。今年度を振り返ってみると，他の多くの機関と同じく，心のケアセンターも常に新型コロナウイルスの対応に悩まされました。大学全体のコロナ対策の中で，心のケアセンターをどの時点で閉室して，どの時点で再開するのか，また，再開するにあたって必要な感染症予防対策とは何か，など本当に多くの時間をかけて準備し実行しました。この紀要についても，果たしてそのような中で発行できるのかどうか分かりませんでしたが，今年度も無事に発行することができました。これも，この状況の中で編集作業を着々と進めてくれた，平野仁弥主任相談員と事務の加集有理さんのおかげです。

2020年度がこのような１年になると予想していたわけではありませんが，心のケアセンターでは，より充実した公認心理師の実習の実現のために，主任相談員のポストを新たにつくりました。これは，センターとしてもずっと待ち望んでいたポストで，実現のためにご協力いただいた大学の関係各位に感謝いたします。主任相談員の仕事は,心のケアセンターの非常勤相談員の取りまとめだけでなく，学内外の実習において，学生，教員との調整役となり実習をサポートするという重要な仕事があります。そして，多少の巻頭言の遅れには目をつぶりつつ，粛々と紀要の編集作業を続けるなど実に多岐にわたります。平野主任相談員には，いきなりのコロナ禍での仕事となりましたが，一つ一つの仕事を着実にこなしていただきました。この紀要の内容の充実も，彼の成果の一つです。

今回の紀要は，従来のセンターでのさまざまな活動報告に加えて，研修生の岩﨑多恵子さんが事例研究を行い，東畑開人先生（白金高輪カウンセリングルーム）より素敵なコメントをいただいています。また，同じく研修生の髙田莉恵さんが，修士論文の研究を基にして，学校支援ボランティア活動についての研究論文を発表しています。さらに，2020年２月10日に実施した，ふくしま心のケアセンターの渡部育子先生，山下和彦先生による特別講義の内容についても掲載することができました。センター長として，これらの研究や諸活動に関わってくださった多くの方々に深謝いたします。

心のケアセンターが所在する奈良県は「葛（くず）」の産地でもあります。葛湯や葛餅の原料となる葛粉は越冬のために栄養をためたその根を加工してつくられます。厳しい冬を経て，春に向けて成長をするためには，しっかりと根っこに力を蓄えることが大事です。葛のその大きな根を見ると，動かない日々の中でも，静かに呼吸して蓄えられていく力があると信じることができます。この１年は，新しい体制となった心のケアセンターのスタッフたちと，待つことの苦しさと希望を感じた１年でした。コロナ禍が長引き，そのストレスからセンターに来談される人もいます。そのような人たちに，葛湯のように，ホッと一息，安心を感じてもらえるセンターにしていきたいと思います。